



コンテナ船の スペース確保 困っていませんか？

全世界（三国間も）海上輸送を 即時対応します！

（在来船、RORO船、チャーター可能）

このようなお悩み、解決します

- 最近海上運賃が高騰し、適正な運賃で輸送してほしい
- いつもお願いしている運送会社では、対応できなくなってきた
- 今までは船会社と直接契約で自社SCで手配していたが、本数を制限されてしまった
- 新たに他の船会社やフォワーダーに依頼しても、断られてしまう
- 毎週決まった本数のスペース確保を保証して欲しい
- 急な船積み対応に対応してくれるフォワーダーを、バックアップとして抑えておきたい
- コンテナ船・在来船・危険品・オーバーゲージでも、快く受けってくれるフォワーダーを探している

▶▶▶詳しくは当社HPをご覧ください <https://www.jpitrust.co.jp>

物流同業者様も
大歓迎!!
取引先の約半数は
同業者様です。

✉ お問い合わせ窓口

hp@jpitrust.co.jp

※お問い合わせ頂きましてもしつこい営業などは一切いたしませんので、まずはお気軽にご相談ください。

自社バン発注、北米MQCは1.5倍確保

▶ ジャパントラスト

全世界のOG貨物や北米向けを主軸にするFCL専門NVOCC、ジャパントラストは、自社の専用コンテナを整備している。「空コンテナ不足は再度深刻化し、今夏にピークとなる可能性がある。SOC(シippers・OWN・コンテナ)として積めるよう準備している」(菅哲賢代表取締役社長、以下同)とし、同社初の自社バン10TEUの発注に踏み切った。今年の日本発北米向けSCで、同社はMQCで前年比1.5倍の計1万5000TEUを契約した。6月には本船スペースをほぼ100%保証する「JTCプライオリティ・チャージ」による新サービスも始めた。

コンテナはリース会社に発注し、中国の工場で「JAPAN TRUST」のロゴや連絡先などを記入したペイントをほどこしている。コンテナ番号は社名略字の「JTC」を冠する表記。コンテナがなく、出荷できず困っている顧客に自社バンを提供する目的だ。自社バンはコンテナ船のほか、混雑するコンテナバースに寄港しないRORO船や在来船などでの利用も見据える。初の自社ロゴの入ったコンテナを活用し、「世界中に動く広告塔」としての宣伝効果も想定しながら、リスクをとって決断した。

オーシャン・ネットワーク・エクスプレス(ONE)など、全てのコンテナ船社とSCを結んだ。菅社長は「昨年10月から取り扱いが急増しており、北米向けは同月~今年3月の6カ月間で1万本近くになった。実績が評価され、順調にスペースを押さえられた」とする。同社には昨秋以降、ロールオーバーなどによる同業者からのコ・ロードの要望が増加、今春以降も新規貨物の旺盛な引き合いは続いて

いる。

昨年度のFCL取扱量は日本発北米向け輸出が計約1万5000TEUで過去最高だった。「日本発北米向けでは(フォワーダー・NVOCCの)トップ5に入る物量だろう」とする。内訳は米国西岸6000本、西岸経由内陸向け4000本、米国東岸5000本、カナダ500本、ハワイ150本程度。北米向けは新規スペースの手当てが非常に難しく、北米向けの新規営業を実質的に停止しているフォワーダー・NVOは少なくない。菅社長は「新規貨物(の引き合い)は断らない。当社には船社との良好な関係があり、出港直前でも(北米向けの)スポットのスペースが空いたら声が掛かる。これを受けて、1、2本でも出せるだけのスペースを(新規顧客に)提供する。必ず空きスペースを埋めるのでキャリアの助けにもなり、また次の声が掛かる」と力を込める。

「JTCプライオリティ・チャージ」による新サービスはMQCの枠の中から優先的に割り当て、希望者の要望が枠内であれば、ほぼ100%の船積みを約束する。チャージ料金はFEU、TEU問わずコンテナ1本あたり2000ドル。現在の環境下でもスペースに自信があるからこそこのサービスだ。

また、直前のキャンセルを牽制する目的で、同社独自の「キャンセルフィー」を設定し、コンテナ1本あたり4万円を課徴している。菅社長は「実際に大口のキャンセルで大穴を空けてしまったときは、キャリアとの信頼関係を維持するために、ペナルティーをキャリアに支払うこともある。キャンセルフィーにより、顧客からのキャンセルは激減し、キャリアか



発注した自社コンテナのイメージ

らはドロップ率の低い優良顧客として、優先的にスペースを割り当てられている。徴収することが目的ではなく、キャリアとの信頼関係を維持し、今後のスペースの確保のため、ご理解いただきたい」と説明する。

15年の米国西岸港湾のストライキによる混乱期に実施した、カナダやメキシコ経由北米向けのサービスも開始。主に米国内陸向けにカナダ、メキシコの各港揚げでクロスボーダートラックに接続して輸送する。

昨年10月から、S/I(船積み指示書)や米国の輸入通関システムAMS(Automated Manifest System)データなどの提出をシステム化した。新たに「My JTC」と名付けた専用のクラウド型システムを立ち上げて、これらの手続きで紙の書類を廃止。既に顧客の9割が利用するまで浸透した(同システム未使用の場合にはチャージが発生)。顧客にとっては在宅で手続きが行えるうえ、フォーマットに1回入力すれば次回から流用できるとあって、好評だという。「書類業務の省力化にもご協力いただき、マンパワーをスペース確保や船会社との交渉に割り当てることができる。(顧客には)感謝している」。

ジャパントラストは名古屋市中区に本社を置き、日本の従業員数30人。米国現地法人がロサンゼルス本社とシカゴ、ニューヨークに支店を置くほか、メキシコとブラジルにも営業所を構える。3月末には名古屋~米LAで在来船のチャーターも断行。在来船のスペース2500立方メートルを自社専用に使え、4月後半に無事、工作機械や設備などのOG貨物など計約2500トンを送った。